

令和5年度 武生高校定時制 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程・ 学習指導	わかる授業を実践し、生徒の授業参加を促して自主的な学習意欲を引き出す。	授業の参加率が非常に低下している。授業の改善には全教員が取り組んでおり、高い意識で好成績をあげ、困難な進路実現を達成した生徒がいる。一方、登校するが授業には出席しない生徒や、欠席オーバーの手前まで休む生徒も多い。わかる授業が生徒の出席を促すことにはならないが、出席した生徒がしっかりと学びを得られる工夫は不可欠である。	生徒それぞれの状況が多様であるため、全体指導では細やかな対応が難しい。個々の生徒の状況把握と情報の共有化により、綿密に個別対応していくようにしたい。教員の側が、ICTの活用など、多様性に対応した教育観と手法を身につけることができるように研究を進めることも重要と考える。
2 図書啓発	読書の大切さを啓蒙して心豊かな生徒の育成を図る。	LHの時間で読書の時間を設けるなど、学校図書を利用する機会を増やす試みはおこなってきた。全国的に若者の読書離れの進行は深刻で、生徒と話していても、「漫画を読むのは疲れるからできない」といっている生徒もいる。読書はテレビや動画を見るよりも、脳への働きかけが大きく、「人間らしく生きるための基本」となるものなので、来年度も啓発に努めたい。	LHでクラスで読書をする時間を設定するようお願いし。図書委員の活動などを通じて啓蒙活動と、アンケートによる生徒の興味・関心の調査をもとに、書籍だけでなく、雑誌などの購読により、利用する生徒を増やしていきたい。
3 生活支援	生徒心得やマナーを守り、規範意識を高めさせる。その際に、専門機関等を活用する。	・「生徒心得やマナーを守っている」と答えた生徒の割合は98%で昨年度比2ポイント低下した。 ・「子どもは生徒心得やマナーを守っている」と答えた保護者の割合が71%から87%に向上した。 ・生徒の規範意識やコンプライアンス遵守の向上に向けて、今後も継続した指導を行っていききたい。	・「生徒の生徒心得違反や問題行動に対して教員が毅然と適切に指導している」の割合が75%から82%に7ポイント向上した。 ・生徒心得やマナーの遵守と規範意識は昨年度より指導基準を緩和したことにより改善傾向にある。結果、徐々に問題行動等も減少した。今後も「生徒一人ひとりの個性と人権を尊重」した指導を継続的に行っていききたい。 改善策としては、全教職員が一貫した指導方針の下、生徒の充実した学校生活に寄与していきたい。
	自転車の車体検査や交通安全教室を実施し、警察署と連携して交通安全指導を行う。	・「交通ルールを守っている」と答えた生徒の割合が100%から98%に2ポイント低下した。 ・「我が子は交通ルールを守っている」と答えた保護者の割合は79%から93%に14ポイント向上した。生徒、保護者ともに、交通安全意識が高まり、目標を達成することができた。	・生徒の重大な交通違反等の報告はなく、これまで警察署や関係機関と連携して指導を行ってきたことが成果として現れている。 ・生徒の登下校中の交通事故が3件報告されており、今後も、「自他の命を尊重する心」を育む教育や交通安全教室等を、関係機関と連携しながら、継続的に取り組んでいきたい。

4 進路支援		成果としては、一人一人に応じた進路指導を行っているという回答した教員が94%で、様々な機会を捉えて進路指導を行っていることが評価できる。進路について話し合う機会について、保護者の80%が子どもとその機会を持っていると答えており、保護者の85%が教員は個々の生徒の進路実現に努めていると答えている。また、総合的な探究の時間を通して進路に関する知識を得ている生徒は、75%と目標に達する結果であった。課題としては、「総合的な探究の時間」に入れている、「進路講演会」、「ようこそ先輩」、「企業説明会」などの各種行事をより効果的にするタイミングについて考えることが挙げられる。	昨年度は、生徒が進路について、保護者や教員と話す機会が少ないことが課題であったが、本年度は75%の生徒が保護者や教員と進路について話していると返答した。コロナ禍が終わり、進路に関する研修会等が復活したことや進路だよりなどをとおして情報を出すことができたためと思われる。今後も効果的な進路に関する行事を考えながら、情報発信に努めていきたい。
	a)講演会や職場見学などの進路に関する行事等を通して、生徒の適正な進路選択と進路先決定後の支援をする。 b)画一的でないサポート学習(模擬試験と基礎学力の支援補習)の効果的な実施を目指す。	生徒一人一人に応じたサポート学習を目指している教員が100%、学校が応募前職場見学やオープンキャンパスなど進路に関する行事を進路指導に役立てていると評価する保護者が91%であった。また、「ようこそ先輩」や「進路講演会」などへの参加は進路を考えることに役立ったと回答した生徒は75%であった。本年度は進学面において、福井大学と福井県立大学にそれぞれ1名ずつが合格した。	就職については、職場見学や進路ガイダンス、面接指導などをとおして生徒の希望を優先し、おおむね希望にそった就職ができた。進学については、2名の国公立大学合格者がでた。担任、個別指導にあたった教員を中心にして、学校全体で取り組んだ成果であった。今後も、生徒各自の意思を尊重しながら、学校と保護者が協力して希望の進路実現を目指したい。
	ふくい若者サポートステーションを始めとする外部機関や教育相談との連携を密にする。	外部機関との連携について、100%の教員が連携を密にして進路指導を行っているという回答し、保護者の91%が外部機関との連携を進路指導に役立てていると評価している。複数名の生徒が、ふくいサポートステーションの職員からの助言を受けた。また、教育相談、外部機関と連携して障がい者雇用での就職もできた。	一般的な就職が困難な生徒については、外部機関との連携が不可欠である。なかなか就職活動に前向きになれなかった生徒には、ふくいサポートステーションからアドバイスをいただいた。また、複数の職場体験をして、実際に働くことのシミュレーションをした生徒もいた。今後も、担任、教育相談、特別支援教育コーディネーターを中心に外部機関と連携していきたい。

5 教育相談 保健	担任・SC/SSW・通級担当者とのケース会議を実施し、生徒理解を深めて適切な支援に努める。 目標:「生徒情報の共有」を毎日実施する。	「教育相談担当教員やSC、SSW、養護教諭などが必要に応じて相談にのってくれる体制は」との問いに「たいへん充実している」、「おおむね充実している」と肯定的回答をした生徒は94%で、目標を大きく超えた。また、保護者からも90%を超えて肯定的に捉えられた。 支援が必要な生徒のケース会議を必要に応じて設けて生徒情報を共有し、必要であれば公的機関や就労支援機関との橋渡しを適切に行い支援に努めた。 また越前市みんなの食堂主催の「おにぎり食堂」やNPOみんなの居場所withふくいの「校内カフェ」などの取組を校内で開催していただき、生徒はお腹を満たすとともにこころの満足を得られた。	悩み事がある時に相談できる手厚い体制が本校にはある。また、そのような体制について生徒も保護者も充実していると捉えている。気軽に相談をしている生徒の姿がよく見られた。今年度は自殺予防として「こころの天気」というオンラインフォームを作成し、長期休暇前にはQRコードを示し情宣した。幸いにも大事に至ることはなかったが、やや不調を訴える生徒には学校から迅速に電話連絡をして聴き取りを行うことができた。次年度は引き続き、対面・オンラインでも生徒の困りごとに対処する体制を維持していきたい。 生徒情報について聴き取った内容を教員・SC・SSWが常に共有し、教員は最新の生徒情報をつかんで日々の生徒対応ができた。教員研修を3回実施し、入学前の生徒情報やSCの有効活用法などについて理解を深めた。また、毎日の終礼時に気になる生徒や出来事を教員で共有することができた。次年度もチーム学校としてまとまって取り組んでいきたい。
	校内環境美化や新型コロナ感染症対策をはじめとした衛生管理を推進する	「校内のゴミ分別に取り組めたか」の問いに96%の生徒が十分に、だいたい取り組めたの回答した。校内美化の取り組みはほぼ達成できた。	ゴミの分別については年度始めの全校集会で、2種類のゴミ箱を持って分別の方法について示した。教室や廊下のゴミ箱を見て回っても、分別はほぼなされていた。今後は校内美化に対する生徒の意識をさらに高めたい。 新型コロナは感染症法上は5類に格下げになったが、依然として学校で集団感染が起きている。インフルエンザも含め、流行期にはコロナ禍3年間で身につけたメリハリの効いた感染症対策(マスク着用・手指消毒・換気など)を適宜行うことが今後も必要である。
	通級指導では、生徒の自立を目指し、個々の特性による困難を改善・克服するため、一人一人の状況に応じた指導を行う。	通級指導対象生徒の成果を、「たいへん実感している」、「おおむね実感している」と答えた教員は100%で、目標を大きく超えた。	本校は本年度、高校通級指導モデル校に指定され、県教委の研修にも協力してきた。また、他高校の校内研修への協力、初めて通級担当となる教員への研修などの取組を行ってきた。 夏季休業中には3日間の集中的な社会体験(白山スイカ出荷作業)を行い単位認定するという画期的な制度も設けた。また、冬季は水仙刈り取り出荷アルバイトを希望者に案内し、地域連携も行った。 これらの取組が評価され、本校教諭1名が「文部科学大臣 優秀教職員表彰(特別支援教育)」を受賞した。